

『マナ』何処行ったの。』のら』は下ブ川の中を歩き始めた。やがて目の前が開け、大きな池が現れた。』のら』は池の中で汚れた体を洗い始めた。』のら』は体を洗いながら、妙にしみるなと思った。よく見るとそこいらじゅうに傷があり、赤くなっていた。』のら』は寂しさや傷の痛さで、涙が出てきていた。『お前何やってるんだ』という声が聞こえてきた。『汚れた体を池で洗っているの』と言いつ返し、声のする方向を見た。『バカ、ここは池じゃなくて、海だ』と言って、『は、は』とその人は笑い飛ばした。』のら』はその人に近づいて行き、『海って何』と聞くと、『人に物を尋ねる時は、まず自分の名前を名乗りな』と言いつ返された。』のら』は慌てて、『のら』と答えた。『俺は『ナンシー』、世界は海という大きな水で繋がっていて、この海の前には別の世界が広がっているんだ。』のら』は『ナンシー』に、『この海の前を見た』とあるの』と尋ねた。『あるとも、七つの海を越えて、世界中を旅したさ。世界は広くここには見られない、色々な世界があるんだ。』のら』はその後も『ナンシー』の不思議な話を、楽しそうに聞いていた。

『俺は腹が減った。飯を食いに行くが、お前はどつする。』のら』は、『お金が無いし、『マナ』を探さない』と』のら』は答えると、『そうか連れがいるのか、じゃ、俺が探すのを手伝ってやるよ。その前に飯を食いにいく。おつてやるよ』と言った。』のら』は『ナンシー』に連れられある店に入った。店に入るなり店の客が、『やー』『ナンシー』、何時来たんだい、この前あったのは半年前だっけ』などと、色々な人が話しかけてきた。そして店の奥で『ナンシー』は、店のマスターとなにやら話しを始めた。

